

一般社団法人大曲青年会議所

第五次中期活動指針（2015～）

SINCE 2015

# Innovation

～大仙郷に変革の波を～

作成 2014 年度 一般社団法人大曲青年会議所

## I 中期活動指針策定の背景

### 1. これまでの沿革

#### ○J C運動の目的

1973年、青年の立場より国際経済と密接に連繫することによって地方経済の発展、ひいては日本経済の自立という重大なる問題の解決をはかるべく、志を同じうする地域の青年経済人が結集し、大曲青年会議所が創立されました。J C運動の目的は綱領にもあるとおり「明るい豊かな社会を築き上げる」ことです。この目的を達成するため、42年にわたり「明るい豊かな地域づくり」を目指し、連綿と運動を展開してきました。また、「明るい豊かな地域づくりを行う人間を育てる」ことは、もう一つの大きな目的であり、「まちづくり」「ひとづくり」の両面をバランスよく展開することが我々J Cの目的と捉えています。

#### ○これまでの中期活動指針と大曲J Cの歩み

当LOMは、この目的を達成するため過去4回にわたり中期活動指針を策定し、5年毎の活動の道標としてきました。第1次「うるおいフィールド大曲仙北」・第2次「夢 full まち大仙」・第3次「Wing 大仙郷～大いなるつばさ」・第4次「Shangri-la～その名は大仙郷」であります。

第4次中期活動指針期間である2009年からの5年間、ミニバスクリニックや親子カヌー教室などの青少年育成事業、雪合戦や防災フォーラムなどの地域資源を活かしたまちづくり事業、全日本残月花火選手権大会の継続開催、(社)中和国際青年商會との25年以上に渡る国際交流、大曲J C創立40周年事業など実施し、「明るい豊かな地域」の実現に向け運動を展開してきました。また、2011年秋田ブロック大会主管・2013年東北地区大会主管を務めたほか、2012年秋田ブロック協議会会長・2014年東北地区協議会会長を輩出し、地域を担う人材の育成にも努めてきました。さらに、2012年には公益法人制度改革により「一般社団法人」へ法人格を移行し、新たな歩みをはじめました。

#### ○大仙郷を取り巻く環境の変化と今後の展望

2011年に発生した東日本大震災は、社会全体に大きな衝撃をもたらしま

した。未曾有の広域災害への対応について多数の問題が顕在化し、また、震災前から抱えていた、人口減少やコミュニティーの崩壊、産業衰退など地域が抱える諸問題も重なり、取り巻く環境は大きく変化しました。

そのような中、2013年夏に決定した「2020年・東京オリンピックの開催決定」は、わたしたちの未来に希望を取り戻すものとなり、経済情勢も好転しつつあります。

2004年から05年にかけて行われた、大曲仙北地域の市町村合併から10年を迎えようとしている今、私たちは青年会議所として、これからの期間、どのような活動の指針を定めればよいのでしょうか。

## 2 中期活動指針策定の経緯

会員が生き生きと活動するために共有できる、また、安定したJC運動・活動を実現するために、今後の指標となるべき指針の策定が求められているのは、今も昔も変わりません。

JC運動とは何かを問い、長期的なビジョンを作り、アクションプランを策定し実践するというロードマップを常に描くべきであります。会員が思い描くビジョンや展開方法・活動案を協議し、求めるもの・求められているものを明確にすることで、明るい豊かな社会の実現に向け、今後も活力ある運動展開をしなければなりません。

今回の指針を策定するにあたっては、第4次中期活動指針期間中における活動の検証を行うとともに、会員一人ひとりの意見を集約する場として新指針策定のためのワークショップを開催しました。そして、会員同士膝を交え議論を行いながら、それらの結果を総合することにより、新指針を策定しました。

## Ⅱ 中期活動指針の意義

### 1. 中期活動指針の必要性

現在LOMの置かれている状況を踏まえ、そして今後、私たちJAYCEEが施策を展開する上で共有できる基本目標・展開方法を示しています。また、目標を達成するために考えられる具体的活動案を示しています。

### 2. 中期活動指針の期間

この指針は、2015年度からの展開方法を示しています。これまで中期活動指針は概ね5年を目処に見直しを行ってきましたが、公益社団法人日本青年会議所の「2010年代運動指針」、また、同東北地区協議会の「自立した新東北再建ビジョン」がともに2020年を目標年としていること、そして、多くの自治体の基本計画・震災復興計画が2020年までのイメージで策定されていること、さらに同年、東京オリンピックが開催されることなど、諸々の社会情勢を踏まえ、「2020年」を1つの節目と捉えることにより、本指針は2015年度から2020年度までの6年間を期間とすることとします。

## Ⅲ 基本目標

**輝かせよう！大仙郷のタカラとチカラを**

**磨き上げよう！未来の地域を担うパワーを**

**求めよう！JC活動を通じて最良の変化を**

## IV 基本目標の実現に向けた展開方法

### ① 輝かせよう！大仙郷のタカラとチカラを

大仙郷には多くの素晴らしいタカラがあることを私たちは知っています。その価値を再確認し、魅力を発信する取組を積極的に進めます。また、私たち J A Y C E E だけで取り組む事業だけではなく、まちづくりに携わる人や他団体との連携などを含め、大仙郷が持つチカラを結集しながら、交流促進や観光振興、農業振興や経済活性化につながる取り組みを積極的に進めます。

### ② 磨き上げよう！未来の地域を担うパワーを

未来のまちを担う子どもたちの成長は、将来の大仙郷を考える上で欠かすことはできません。郷土愛にあふれ、自分が育ったまちの歴史や地域のタカラを話すことができる青少年の育成、また、リーダーシップと協調性に富んだ青少年の育成、そして、自発的に行動し将来の夢に向かって歩みを進めることができる青少年の育成に積極的に取り組みます。

### ③ 求めよう！JC 活動を通じて最良の変化を

一人ひとりの意識改革ができた L O M は、会議や事業への参加率が高く活発な L O M につながります。まずは、我々一人ひとりが、意識が高く情熱をもった J A Y C E E となるべく資質向上に取り組みます。そして、活発化した J C 活動を通じ、地域での認知度が高く、市民から頼られる L O M づくりを行います。さらに、全員参加の L O M づくりを進めながら、企業会員や女性会員の増加などを重点に、県内 N o . 1 の会員数を目指して拡大を図ります。

## V 具体的活動案

### ① 輝かせよう！大仙郷のタカラとチカラを

- ・全日本残月花火選手権大会を継続開催する。
- ・花火大会前後の栈敷を活用した事業を行う。
- ・大仙郷の新名物の開発と売り込みを行う。
- ・若い人向けの観光ガイドブックを作成する。

- ・まちなか探検ツアーを開催する。
- ・被災地の J C と連携し出張残月を開催する。
- ・農業・産業を体験する事業を実施する。
- ・宣伝などのセンスと技術を磨くセミナーを開催する。
- ・地域経済活性化のための研修会を開催する。
- ・大仙郷の商工会など他団体との交流や連携事業を実施する。

## ② 磨き上げよう！未来の地域を担うパワーを

- ・歴史探索イベントやレクリエーションを実施する。
- ・小学生向けの花火教育カリキュラムやセミナーを開催する。
- ・被災地の子どもたちとの交流事業を実施する。
- ・英語を使って交流する機会を創出する。
- ・(社) 中和国際青年商會との青少年交流事業を行う。
- ・全国に誇れる教育機関を誘致する。
- ・スポーツ少年団へボランティア参加する。
- ・年代別で交流できる行事を実施する。

## ③ 求めよう！JC 活動を通じて最良の変化を

- ・ J C 運動の前提となる J C 活動について学ぶ講習会を実施する。
- ・ J C 活動や L O M の理解を深め、歴史を学ぶ講習会を開催する。
- ・定例会で事業報告会を行う。
- ・組織の認知度を高めるため、多くの人々が楽しく参加できる活動を行う。
- ・短期スパンで継続的に取り組む草の根活動を行う。(月 1 回のゴミ拾いなど)
- ・移動定例会を開催する。
- ・全員で行う会員拡大方法を模索し考案する。
- ・多くの人に知られる活動の展開と広報の強化を行う。

## VI 中期活動指針の実現に向けて

今、JAYCEEの価値が試されています。私たちは、この大仙郷で明るい地域を実現するために運動を展開していますが、ときにその活動が自己満足に陥っている時はないでしょうか？市民が何を思い、何を必要としているのか。地域からの期待を受け止め活動内容を見直さなければなりません。

「忙しい」、「大変」、「出来ない」と、初めからあきらめてはいませんか。まずは、自分自身の意識を変革しなければなりません。これらの感じ方は私たちの努力次第で変化します。そして、明るい豊かな大仙郷の実現に向けて歩を進めるためには、全員が事業の成功や失敗を自らの課題として受け止めなければなりません。会員減少や継続事業の運営困難など、組織存続の危機になったとすれば、それは外側からただ眺めていたあなた自信の責任かもしれません。そして、全会員で策定したこの中期活動指針を共有することが重要です。この指針を常に念頭に置き活動すれば、ロードマップが指し示す目標の場所に、難なくたどり着くことができるはずです。

「誰かがやってくれるだろう」と考えるのではなく、「自分が何とかしよう」とする行動力をJAYCEE一人ひとりが持たなければなりません。私たちが愛する大仙郷を明るく豊かな社会にするためには、まずは私たちの意識改革が必要です。そして、そのチカラを地域に伝播させることで大仙郷が発展していくはずです。

私たちは青年経済人としてこの愛する大仙郷に住まうものであり、志を同じう、相集い力を合わせるJAYCEEです、地域で必要とされる人材がまちづくりの新しい視点を生み出し、価値を磨くことで、この大仙郷に輝かしい未来を創造します。

# Innovation20

～大仙郷に変革の波を～